

地域コーディネーター 地域との橋渡し役として

4月から学校運営協議会の開催準備や進行、学校側と学校支援ボランティアをマッチングさせる業務を担っています。

同協議会は、清水・御影地区でそれぞれ2回開催しています。会議では子どもの育ちの現状やありかた、地域ぐるみで子どもを育むための課題等について、議論が交わされており、出された意見は幼稚園・各学校の運営にいかされます。

学校支援ボランティアについて、今年には既存のものに加え、職場体験の職種拡大、家庭科のミシン指導補助等の要望が学校からあり、地域の皆さんにご協力いただいています。今後も、学校運営協議会・学校と地域をつなげる橋渡し役として尽力します。



コミュニティスクール
コーディネーター
上出 進さん



学校 笑顔輝く学校を地域とともに

本町は教育実践指標である、しみず「教育の四季」が地域に根付いているため、コミュニティ・スクールが導入されても、継続的な取り組みができています。

学校運営協議会では、学校が目指す子どもの姿を示した「学校経営方針」に基づき、地域の委員の皆さんから貴重な意見をいただいています。

また、学校支援ボランティアで、住民の皆さんにご協力いただくことによって、子どもたちの学習に対する理解度の深まりが見られます。

ボランティアさんから「子どもたちと過ごすことができ、とても楽しかった」という言葉をいただくこともあり、大変うれしく感謝しています。

今後も、清水小のスローガン「笑顔輝く 日本一の学校」を目標に、家庭・地域の皆さんと連携し、健やかな子どもを育む学校を築いていきます。

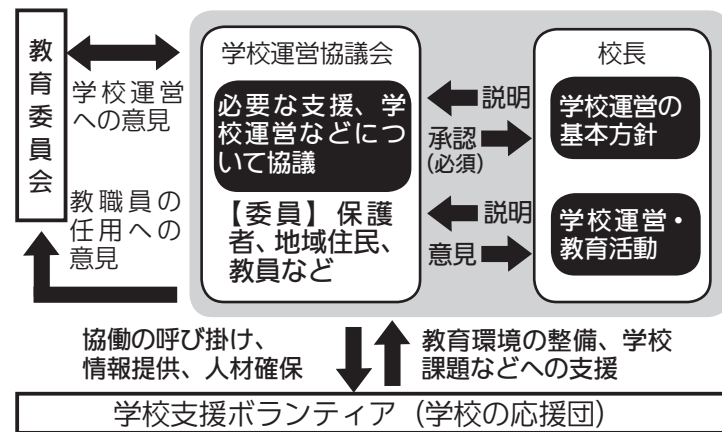


清水小学校
高井 正樹 校長

本町は今までも、本町独自の教育指標である、しみず「教育の四季」を基に、学校・家庭・地域が丸となって「感性あふれ、表情豊かな子の育成」に向けて取り組んできました。

教育委員会では、CS導入に際して、しみず「教育の四季」をさらに発展させるとし、既存の組織「しみず教育の四季推進協議会」をベースに「学校運営協議会」を設置しました。

■コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）■



■コミュニティ・スクール導入で期待される効果

- 地域住民が学校運営協議会に参画することで、学校と地域が情報を共有し、協力体制が構築される
- 子どもたちが地域住民と関わることにより、学びや体験活動が充実する
- 地域住民による学校支援ボランティアの充実や拡充

チェック! ※しみず「教育の四季」の詳細は、町HPに掲載しています!

しみず「教育の四季」をベースにした取り組み

特集 学校と地域がパートナーとして子どもを育む
コミュニティ・スクール

学校と地域が協働して教育環境を充実させる仕組み「コミュニティ・スクール」（学校運営協議会制度）。今年4月から町内の幼稚園・小・中学校に導入されました。

これからの学校は、少子高齢化や人口減少、国際化の進展など、変化の激しい社会動向に対し、教育課程を工夫した教育活動を展開する必要があります。だからこそ、学校・保護者・地域が情報や課題を共有し、「これからの生きる子どもたち」を社会総ぐるみで育む体制をつくらなければなりません。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できるしくみです。

今回は、本町の取り組みや地域ボランティアの活動などを紹介します。



職場体験の受け入れ支援



家庭科授業での学習支援



読書活動への支援（絵本づくり）



学習サポート支援

ボランティア 「子どもの笑顔がエネルギーに」



生涯学習ボランティア
書道部会 副部長
久野 綾乃さん

書写ボランティアとして活動して14年目になります。授業では先生の指導のもと、お手本に沿った基本の筆づかい等、指導のサポートをしています。

子どもたちは、一枚目よりも二枚目、最後の清書では見違えるほど上達します。真剣に取り組む姿や、「上手に書けた！」と自信に満ちたうれしそうな表情を見ると、私たちボランティアもエネルギーをもらっています。

子どもたちと顔見知りになり学校外で挨拶されることも。この活動をきっかけに、子どもが地域の大人とコミュニティを持つことの学びにもつながる、そう思うと、よりやりがいを感じます。

書写は私にとってライフワーク。今後も続けていきたいですね。興味がある方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に活動してみませんか。



「地域とのかかわりは貴重な体験」 子ども



御影中学校3年生
吉田 光青さん

小学生の頃から中学生になった今でも書写授業でボランティアの皆さんには教えてもらっています。会うと「元気かい、大きくなったね！」と声をかけてもらうこともあり、自分のことを覚えていてくれるんだなとうれしく思います。

また、昨年の職場体験では、コンビニエンスストアで清掃をはじめ仕事のことをお店の方に教わり、とても勉強になりました。

家族以外での地域の大人の皆さんとのかかわりは、自分にとって貴重な体験です。

読書活動の支援

- 本の読み聞かせ
- 新刊図書のカバーかけ、本の台帳整理
図書室の環境整備 など



児童への本の読み聞かせ

クラブ活動の支援



小学校クラブ活動の講師

登下校の安全見守り



登下校の交通安全・防犯見守り

ここで紹介したボランティア活動や、「このような活動なら自分もボランティアに参加できるかも…」など、

学校支援ボランティアに興味がある方はぜひご連絡ください！

★教育委員会学校教育課 (TEL 62-5138)

学習の支援

- 職場体験学習支援、地域産業（農業・そば）体験学習支援、まち探検（商店街）学習支援
- 書写・家庭科授業やスキー学習支援
- 夏季及び冬季の学習サポート
- 伝統文化一日体験 など



中学生職場体験学習



地域の食（そば）の体験学習



スキー学習の指導

体験活動の受け入れ



幼稚園児によるデイサービス訪問体験

学校と地域が協働した取り組み

コミュニティ・スクール

CS活動

保護者・地域の皆さんによる学校支援は、以前から実施されていましたが、コミュニティ・スクール導入後はより活発になりました。

活動内容は多岐にわたり、ボランティア数も増加しています。

ここでは一部分ですが、現在実施されている学校支援ボランティアの活動を紹介します。

環境整備の支援

- 学校周囲の環境整備
- 絵画など芸術作品の校内展示
- あいさつ推進・いじめ防止活動運動 など



学校花壇の苗植えの手伝い



学校通学路の環境整備



子どもたちからの まちづくり提言を町長に

子どもフォーラム「清水ミライ若者会議」にて中・高校生から発表された、「まちづくり提言」。
将来を担う子どもたちが、清水町のミライを考え「こんな町になってほしい」と仲間と知恵を出し合い考えたものです。
このたくさんの思いが詰まった提言書が、12月2日に各校の代表生徒から町長に手渡されました。
町長は「若い皆さんの提言をまちづくりへいかしていきたいと思います」と話しました。



学校活動を地域住民と共有 子どもフォーラムを開催

今年初めての試み 「清水ミライ若者会議」 グループワークの実施

11月26日、「しみず」教育の四季」講演会及び子どもフォーラム「清水ミライ若者会議」が開催されました。

講演会では「地産地消地人のパンづくり」と題し、杉山雅則さん(満寿屋商店社長)から、「十勝の素晴らしさに気づいていない人が多い。身近にある小さな幸せを探してほしい。」との講演がありました。
続いてのフォーラムでは、初めに、小中学校及び清水高校の児童生徒から、学校行事の様子や児童



会・生徒会の取り組みを紹介。その後「清水ミライ若者会議」へ。テーマは、清水・御影中の3年生から十勝清水学「清水ミライ若者会議」での授業を通しての「まちづくりへの提案」と、清水高校生からの「私たちの町づくり新提案」。内容は、福祉や食・観光などさまざまな分野に分かれ、グループワークを実施しました。
メンバーは、提言する生徒のほか、学校運営協議会委員・教職員等で構成。生徒のアイデアに対し「実現する方法と課題」今できること」について活発な議論が交わされました。
最後の発表では、「認知症サポート養成講座受講の浸透」「農業に特化した大学設置」「牛玉ステーキパンの創作」「景観写真コンテストの開催」「ジェットポートでの川下り観光」等のアイデアが提案され、会場の関心を集めました。

私たちの思いを「清水のミライ」へ!

清水中学校からの提言

- 高齢者支援
 - ・車がなくても買い物や通院に困らないようにタクシー・バス代金を無料にする。
 - ・地域のゴミ拾い、花壇づくりなどを通して高齢者とコミュニケーションをとる。
 - ・高齢者が安心して働ける環境づくり。在宅ワークの設備を整える。
- 福祉対策
 - ・多くの人に認知症サポーター養成講座を受けてもらい認知症の理解を深める。
 - ・障がいを持つ人が雇用される職場を多くつくる。
 - ・サポートが必要な障がい者の方に無償でサポーターをつける。
- 特別養護老人ホーム等の介護施設
 - ・入所待機者が出ないよう施設を大きくする。
 - ・施設に入る高齢者への補助金制度をつくる。
 - ・幼児や学生との交流の場を設ける。
- 子育て支援
 - ・保育士の人数を確保する対策を。
 - ・中・高校生のボランティアを募集し保育にかかわれる機会を増やす。
 - ・ひとり親家庭への資金援助制度を設ける。
 - ・親の心をケアできる相談所の設置。
 - ・町の子育て支援する機関のことを広く知ってもらう。
 - ・母子が外出しやすい町にする。
- いじめ対策
 - ・SNSでのいじめを少なくするため、SNSに詳しい専門家に講演をしてもらう。

御影中学校からの提言

- 自然を大切にしたいまちづくりとして
「フラワーロードへの植栽」
御影地区の通学路のフラワーロードに花・木を植える。潤いのある通りにしてほしい。
- 自然をいかしたまちづくりとして
「SNSやポスターでの発信」
新たな自然を発見し、その場所をポスターやSNSで発信。本町の良さを全国に広める。
- 食のまちづくりとして
「牛玉ステーキパンの創作」
大人の皆さんが牛玉ステーキパンを有名にしてくれたので、今度は新ご当地グルメ「牛玉ステーキパン」を中学生のアイデアで成功させたい。
- 笑顔あふれるまちづくりとして
「特産物を使ったイベントとインスタ」
インスタ映えする建物や場所をつくり、そこで特産品を使ったイベントの開催。その様子を町内外に発信し本町に興味を持ってもらう。

清水高校からの提言

- 清水町の知名度を上げ、足を運んでもらうため、本町の大自然を観光にいかす。
- ワイヤーを滑車で滑り降りる「ジップライン」観光
 - 「ジェットポート」での川下り観光
 - その他
町にまつわる情報の噂話を町中に掲示する「噂プロジェクト」、道の駅、CMでの宣伝、SNS情報発信等
- ※提言内容は抜粋して掲載しています。詳しくは学校教育課まで。

議論で提案がより深いものに



清水中学校3年 笠井ひよりさん

私は幼児とお母さんへの支援として、体と心のケアの無料健康診断や母子が外出しやすいまちづくりなどを提案しました。
グループワークでは、話が進むうちに、皆さんから私たち中学生とは違う目線でのアイデアが出て、提案がより深いものになりました。このような経験をさせてもらって良かったです。

参加者から

「清水ミライ若者会議」グループワークに参加した生徒に感想をインタビュー!

実現に向けた話し合いに学ぶ

私は認知症への地域理解が足りない面があると感じ、認知症サポーター養成講座を町民に浸透させることを提案しました。
グループワークで自分の思いを大人の皆さんに主張できたこと、またその思いを真剣に受け止めてくれて、一緒に実現に向けて議論したことは、私にとっても勉強になりました。



清水中学校3年 澤村 栄樹さん